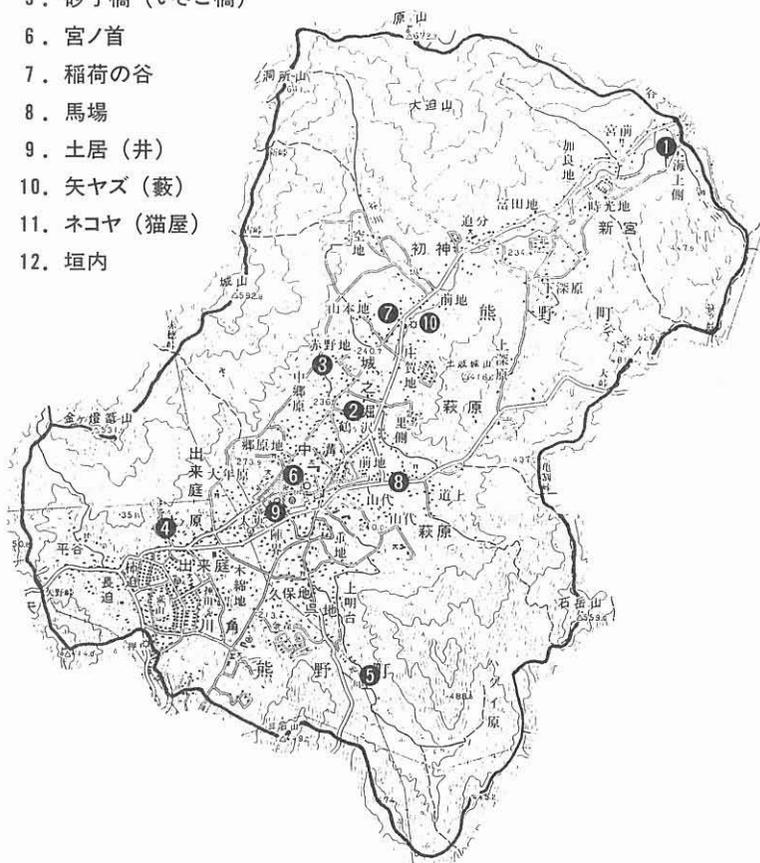


由来のある地名位置図

1. 海上側
2. 鶴が沢
3. 落ち矢
4. 火ノ原
5. 砂子橋 (いさご橋)
6. 宮ノ首
7. 稲荷の谷
8. 馬場
9. 土居 (井)
10. 矢ヤズ (藪)
11. ネコヤ (猫屋)
12. 垣内



由来のある地名

かいじようがわ
1. 海上側

●所在地 熊野町新宮区

広島市阿戸町との境に海上側という地名があります。地名の起こりについては、紀州の熊野と結びつけた由来があります。紀州の熊野川は熊野本宮大社に源を発し、新宮市を出口として海に注ぎます。一方本町の熊野川も、源に熊野大社があり川の出口が新宮区です。本町の場合は海がなく、その地域を紀州新宮の海になぞらえて海上側の地名にしたというものです。

おちや
3. 落ち矢

●所在地 熊野町城之堀区

城之堀区に位置する、堀之城の東側に、「落ち矢」というところがあります。伝説に残る、土岐城と堀之城の合戦に由来しているといわれ、土岐城軍の放った矢がこの地に落ちたところから落ち矢の地名がつけられたということです。

5. 砂橋 (いさご橋)

●所在地 熊野町呉地区

その昔「いさ」という女が呉地奥の橋の下に子どもを捨てたと伝えられます。昔は、生活の苦しさのため、仕方なく子どもを捨てるという話はよくありました。捨てられた子どもは無心に橋の下で泣き続けました。その寄るべない傷心の声は村人の心を痛く打ったといい、いつの頃からその橋を「いさご橋」と呼び始めたのだ、と里人は伝えております。

つるがさわ
2. 鶴が沢

●所在地 熊野町萩原区・城之堀区

萩原区の県道の北側を「鶴が沢」と呼びます。昔は沼沢や湿田で、多くの鶴が飛来していたので、この名がつけられたといわれています。

伝説では、寛政12年(1800年)火繩をくわえた鶴が、熊野本宮社の神殿へ飛び込み、火災になったと伝えられ、当時の熊野に奥の鶴が飛来していたことを物語っています。

ひのはら
4. 火の原

●所在地 熊野町出来区

地名の起こりは、昭和の初め頃まで行われていた「虫送り」の慣習に由来するといわれています。「虫送り」とは、農薬のなかった時代に、稲の害虫を払うため、神社でもらった神火をたいまつにつけ、稲の上を振り歩く行事です。その残り火を村境で処理したと伝えられ、村中のたいまつで、この付近は文字通り火の原のようになったと想像できます。

みやのくび
6. 宮の首

●所在地 熊野町中溝区

佐太夫伝説に由来するといわれる地名です。佐太夫は、榊山神社の長男として生まれましたが、事情があって養子になりました。思いやりがあり、人望の厚かった佐太夫を時の庄屋がねたみ、親殺しの無実の罪をきせて、ついには首を打ってしまったといえます。身内のものが、その首を持って帰る途中、生家の榊山神社に立ち寄ったと伝えられています。

7. 稲荷の谷

●所在地 熊野町城之堀区

「稲荷の谷」の起源は、その地区にある豊橋稲荷神社に由来すると思われます。熊野には、稲荷神社と呼ばれるものがたくさんあり、祭神の多くは宇迦御魂神や保食神で、田の神であり、「うけの神」「みけつの神」などの食物の神と伝えられます。町内の稲荷神社は、正一位第明神の旗を揚げ、直接または間接に伏見稲荷と関係を持っていると考えられます。

9. 土居

町内には「土井」「上土井」「中土井」「下土井」「前土井」「古土井」「道土井」「上ノ土井」「土井原」など、姓や地名が数多くあり、土井は土居と同じと考えられます。土居とは、四方を土堀で囲み、その外をさらに堀で囲んだ、中世の武士の屋敷です。この屋敷のあるところや、そこに住んだ人の名を土居と呼んだと考えられます。

11. ネコヤ (猫屋)

本町には各地に「猫」のつく屋号や地名が残っています。「ネコヤ」には「根小屋」「根子屋」「根古屋」「根本谷」「根古谷」「猫屋」「猫山」などの字が当てられ、山城に付随した町、あるいは、城に保護される山麓の町といった意味があり、中世の山城の城下集落のひとつの呼び方です。

8. 馬場

●所在地 熊野町萩原区・平谷区・中溝区

「ばば」の地名は、萩原と平谷にあり、中溝には「廻り馬場」という地名が残っています。萩原の「ばば」は、天正18年(1590年)の厳島の文献に出ており、相当古いと考えられます。

「ばば」とは騎馬を乗り回す練兵場のことで、戦国時代に起源を持ち、町内の山城とも関係あると考えられます。

10. ヤヤズ (矢藪)

●所在地 熊野町初神区・萩原区

土岐城山の北山麓、初神区と萩原区の境付近に、「ヤヤズ (矢藪)」と呼ばれている地区があります。由来は、城之堀区の「落ち矢」と同じように、戦国時代の山城で土岐城と堀之城の合戦にあるといわれます。このとき両軍の放った矢が、この地区に無数に落ち、藪の竹のように地面につき刺さったことから「ヤヤズ」と呼ばれ始めたものと伝えられます。

12. 垣内

「垣内」はカイト、ガイチ、ガーチ、コーチ、ゴーチ等、所によっていろいろな呼び名があり、もともと祖先の生活の集団単位を指したものでした。集団はいろいろあり、互いの区別のために、方角と所在、人名と職業、植物などのいずれかを冠して呼んだものと思われます。熊野には以上のようにして名づけられた垣内が、姓や屋号で数多く残っています。

くまの文化財めぐり

— ふるさとの文化財をたずねて —

熊野には多くの遺跡・文化財が点在しています。これらを実際に眼で見て、手で触れてみるにより、活字や写真で得た知識がより確かな活き活きとしたものになります。

その文化財めぐりをするための手引きとして、文化遺産の代表的なポイントを選んで4つのコースにまとめました。これらのコースは、四季折々に自然を楽しみながらどなたにも手軽に利用していただけるよう、所要時間や体力を考慮して組み立てられています。ぜひ、文化遺産の学習や散策にお役立てください。また、このコース例を参考に、自分独自のコースを組み立ててみるのも面白いでしょう。

熊野町の貴重な文化遺産に触れ、新しい熊野の魅力発見に役立てば幸いに思います。



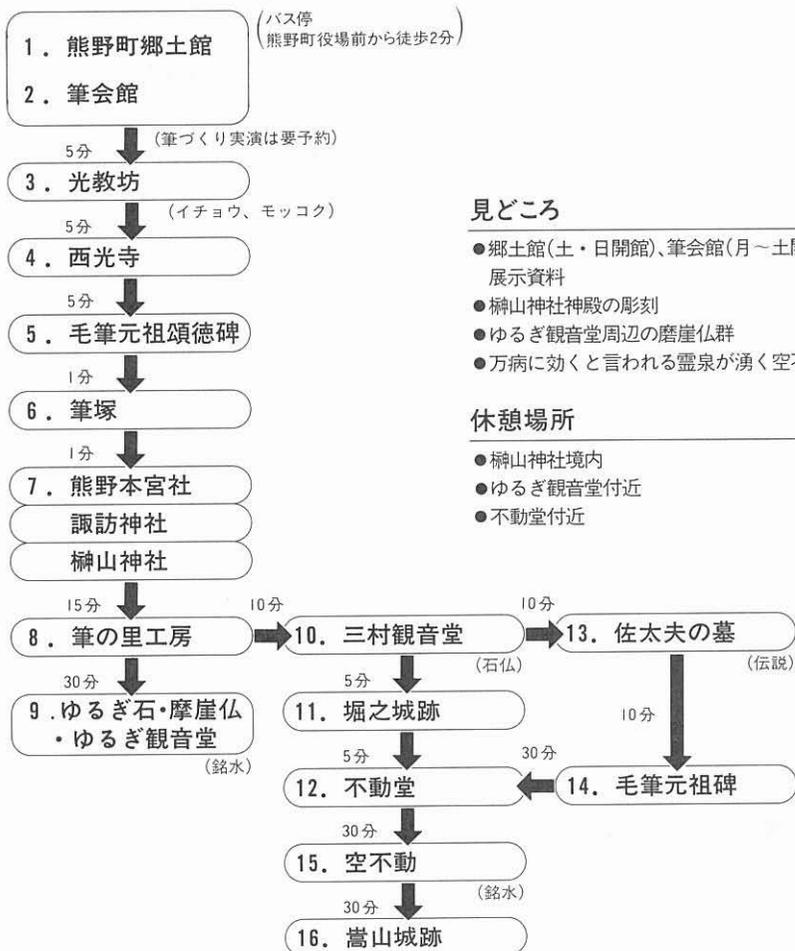
1. せせらぎと筆の里めぐり

筆塚・榊山神社からゆるぎ石・空不動

筆会館、毛筆元祖頌徳碑、筆の里工房など、筆にゆかりのポイントと、ゆるぎ観音堂や空不動の銘水をめぐるコースで、筆の里の雰囲気をも十分に味わえるコースです。

見どころも多く、筆に関する資料などを展示した郷土館、ゆるぎ観音堂周辺の磨崖仏群、巨石の下を清水が流れる名水

の空不動などがあり、嵩山城跡からは広島や宮島、中国山地の山なみが見渡せる素晴らしいコースです。不動堂から空不動、嵩山城跡にかけては急な山道となり、十分注意が必要です。

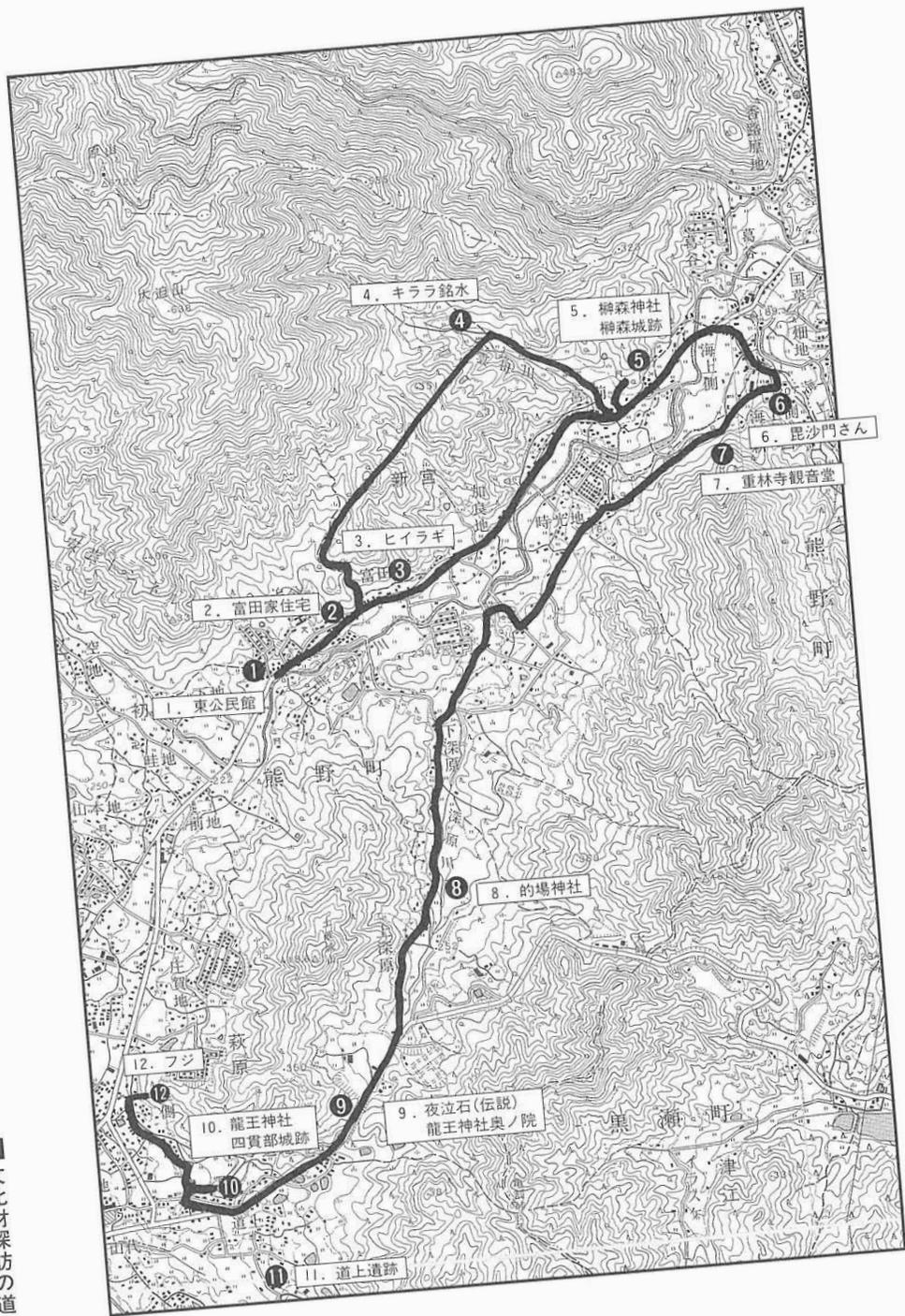


見どころ

- 郷土館(土・日開館)、筆会館(月～土開館)の展示資料
- 榊山神社神殿の彫刻
- ゆるぎ観音堂周辺の磨崖仏群
- 万病に効くと言われる霊泉が湧く空不動

休憩場所

- 榊山神社境内
- ゆるぎ観音堂付近
- 不動堂付近



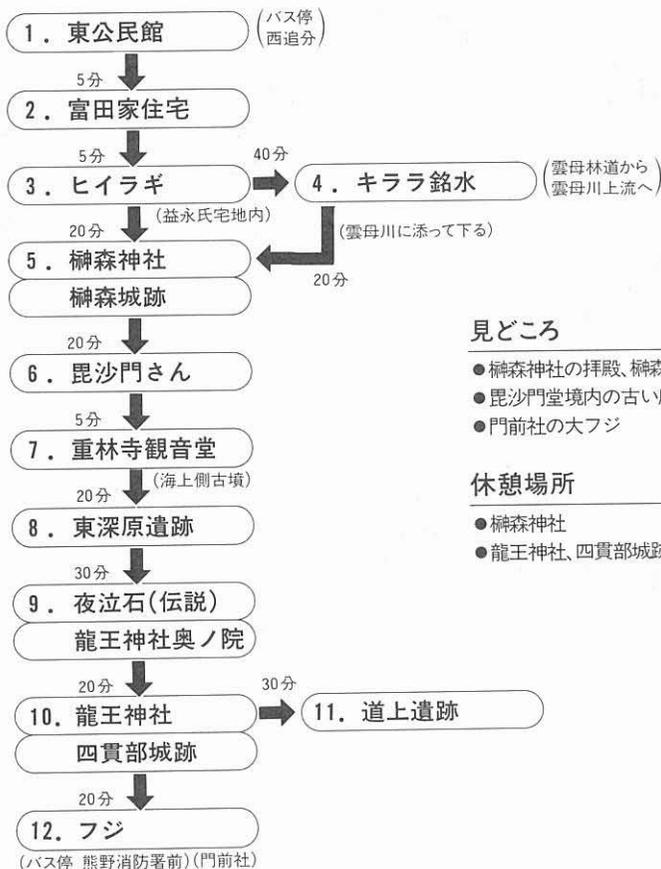
2. ふれあいの里めぐり 草葺き屋根の残るやすらぎの里探訪

草葺き屋根の残る里を訪ね遺跡と城跡をめぐり、田園情緒と人情味あふれるコースです。

見どころには、幽玄の雰囲気が漂う毘沙門さん、キララ銘水、夜泣石の伝説が残る龍王神社奥の院、町指定天然記念物のヒイラギと大フジなどがあります。

市街地を歩くことが多く比較的平坦な

コースで、散策をかねて風景を楽しむことができます。

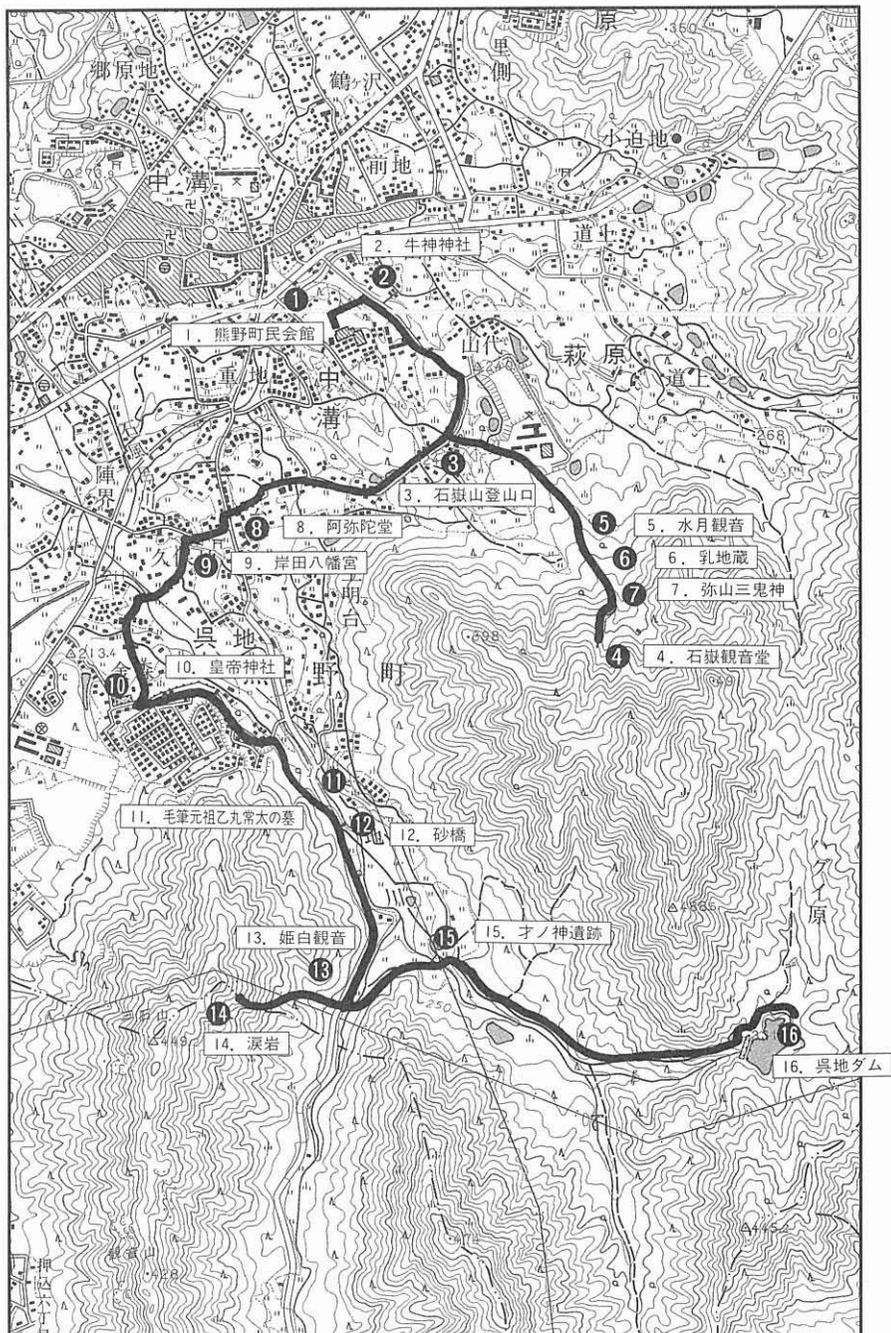


見どころ

- 榊森神社の拝殿、榊森城跡の城郭
- 毘沙門堂境内の古い庭園と五輪石
- 門前社の大フジ

休憩場所

- 榊森神社
- 龍王神社、四貫部城跡付近



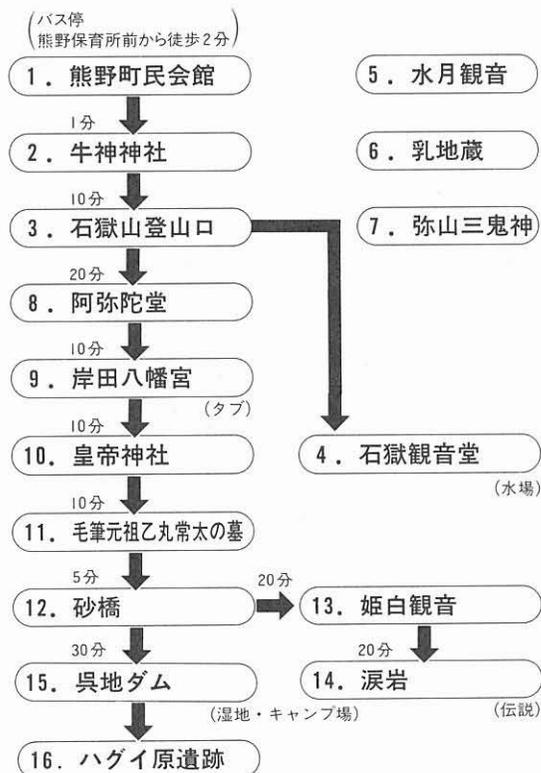
3. きらめく緑の森のめぐり 石嶽観音から呉地ダムへ

石嶽観音から呉地ダムに至る、春から秋にかけてそれぞれに豊かな自然を満喫できるコースです。

安芸の国 32 番の観音札所といわれる石嶽山は山全体が霊山として崇められてきた所で、荘厳な雰囲気にも満ちた聖域です。石嶽山を下り、毛筆元祖・乙丸常太の墓を経て砂橋、涙岩の伝説にゆかりの

2つの地をめぐり、自然の宝庫・呉地ダムへ向かいます。

石嶽山は急な道が多く、十分な注意が必要で、山頂からは熊野盆地が眼下に広がる眺望を楽しむことができます。

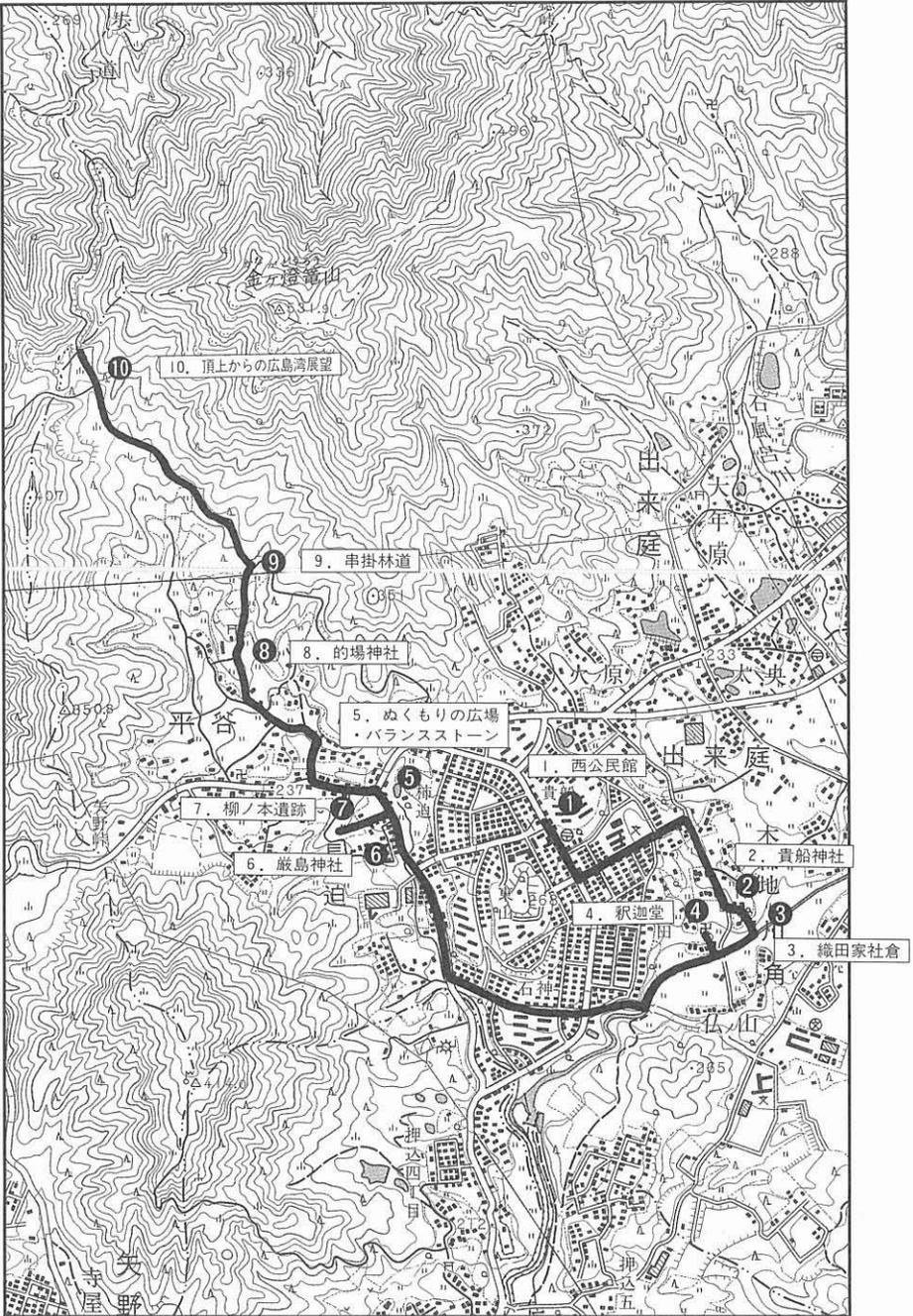


見どころ

- 石嶽観音寺付近
- 伝説の岩、涙岩
- 毛筆元祖 乙丸常太の墓

休憩場所

- 砂橋付近(呉地公園)
- 呉地ダムキャンプ場

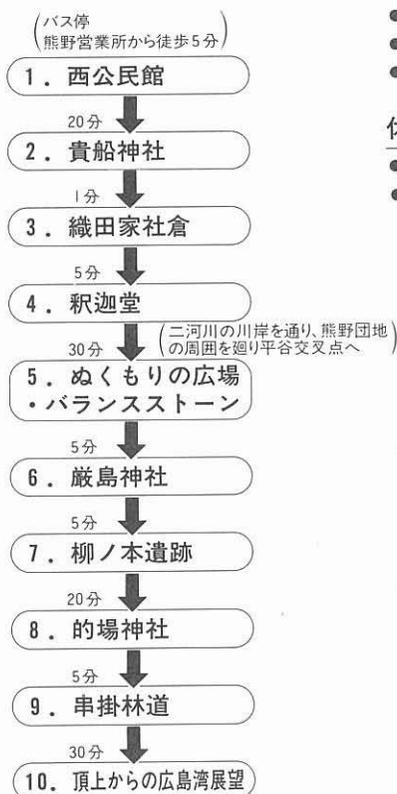


4. ぬくもりの里めぐり バランスストーン・ぬくもりの広場から串掛林道へ

西公民館から出発し、熊野の新名所、ぬくもりの広場とバランスストーンを経て串掛林道に向かうコースです。貴船神社、釈迦堂の木彫りの仏像、的場神社などの見どころがあり、串掛林道頂上からは広島湾を見渡す素晴らしい展望がひらけます。ぬくもりの広場とバランスストーンは広島熊野道路開通記念に造られたも

ので、やすらぎといこいの里を象徴したモニュメントが建っています。

道路は全般的によく整備されており、気軽に歩くことができます。



見どころ

- 県内最古の織田家社倉
- 釈迦堂の木彫りの仏像
- バランスストーン
- 頂上からの広島湾展望

休憩場所

- 的場神社付近
- 串掛林道頂上付近

熊野町文化財のしおり

平成5年4月1日 発行

編集・発行 熊野町教育委員会

広島県安芸郡熊野町3531-1

電話(082)854-1124

企画・制作 (株)平和広告

熊野町教育委員会